

# 2026年度所信表明

JAXA 宇宙科学研究所 所長 藤本正樹

## 宇宙科学中型計画では、世界に「あっ！」と言わせるものを連発する

「はやぶさ2」は大成功だった。日本が主導する規模の計画でも、「そんなやり方があったのか」という角度からアプローチし、しっかりと科学を語る態度を持つことでこれが実現した。この姿勢は宇宙科学研究所の芯として持ち続ける。科学における重要な成果をコアに持ちつつ、それだけではない、より広い範囲からの応援を得るミッションの形を追求する。

## より小規模の計画においては頻度を重視し、宇宙科学の持続的発展を促す

中型よりも小規模な計画において、中型同様レベルで狭い意味での科学的成果を求めると、コストや準備期間が過大になってしまいメーカーとの関係性も含めて持続的ではない。今後は頻度を重視し、「何をもって成果とするのか」という評価における

健全な視野も確保する。

## 宇宙実証や実験場活用を推進し、現場経験を積んだ人材の育成を充実させる

日本流の宇宙科学を魅力的に進めていく中核的人材を意識的に育成する。そこでは「現場がわかっていること」があらためてのキーワードであると認識し、若手には短いサイクルで一通りの経験ができるプログラムへの参加を推奨する。ここでも、評価における健全な視野の確保が肝である。